

2019.7

2021.3

2021.4

2021.10

2021.11

2022.1

2022.4

2022.5

2022.6

2022.7

2022.10

2022.10

2023.2...

高札揮毫

真宗本廟お待ち受け大会・本廟創立七百五十年記念大会

池の平青少年センター改修・竣工式

慶讃テーマソング演奏の様子

慶讃事業本部設置

教区団体参拝抽選会

教区お待ち受け大会スタート

カウントダウン看板設置

教区お待ち受け大会での帰敬式(仙台教区)

孫子世代への法義相続奉仕団

対談 桂小春團治さん×木越総長

合掌するご門徒(富山教区)

法要に向けた境内整備

法要リハーサル

慶讃事業での発行物

50年に一度の慶讃法要。2017年に慶讃法要準備本部を設置、宗務審議会での協議や、全教区での内局巡回を経て、2019年に慶讃事業本部を設置、慶讃テーマが発表されました。法要後をも見据え、数多の方々によって慶讃事業がすすめられています。今月の表紙では、本紙で2021年1月号からお伝えしてきた「慶讃NEWS」の写真とともにこれまでのあゆみを振り返ります。ぜひ、法要にご参拝ください。

同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

4

Vol. 785 April 2023

Shinran
500th

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう



慶讃特設サイト

検索

発行所 真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集／東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)
購読料 無料
送料 1部1万円1,300円(部数により変動)
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

CONTENTS

2・3面

人間といういのちの相

多様な性
—LGBTQと医療—
吉田 絵理子さん



6・7面

特集

慶讃法要
—50年に一度のご縁にあう—



11面

宗教とは 信仰とは
—カルト問題を通して考えよう—
第2回(全3回)



4面

現在を生きる
御同朋・御同行からの問いかけ
—是施陀羅の課題— 第17回

5面

親鸞聖人にであう
第9回

8面

慶讃NEWS

10面

今月の法話 第31回

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

〔第1期法要〕3月25日～4月8日 〔讃仰期間〕4月9日～14日 〔第2期法要〕4月15日～29日

連載

人間といういのちの相



ンバーがLGBTQの学習会を始めていて、私も加えてもらい、2021年に医師5人で一般社団法人を設立し、医療者向けの講演会やワークショップを行っています。

——「**自身のことをカミングアウトされた後、どんなことがありましたか。**」

私は子どもの頃から女の子らしくなかったで、家族は全員うすうす気づいていて、女性のパートナーがいると伝えた時にも、大きな驚きや拒絶はありませんでした。職場で一緒に働いている身近な人たちから偏見や差別を受けたら傷ついてしまいそうだという不安が大きく、職場でのカミングアウトが最後になつてしまいました。驚いた人もいましたが、意外なほどに私の活動を応援してくれる職員が多く、職員間での患者さんのセクシュアリティに関するの噂話などもなくなりました。「実は自分も」とか、「自分の家族がそうなんだけど」とお話や相談に来てくださる人が

増え、職場でも日常的にLGBTQに関する話がされるようになりました。

ただ、これはあくまで私の個人的な経験であつて、カミングアウトによる体験は人によって大きく異なります。カミングアウトしたことで、大学生の時に親からの仕送りが突然一切止まった友人や、家から追い出された友人もいます。また、職場でセクシュアリティが知られたことをきっかけに壮絶ないじめにあつて、うつ病になつて失業した人もいます。死にたいという気持ちを抱えているLGBTQの人も少なからずいて、「世間」が時に人を死に追いやってしまっている現実があるのです。

——「**一緒に働いている人がLGBTQであることによって、他の人が損害や不利益を被ることは一切ないのに、攻撃はされる。私たちは、自分と違うということが許せない、自分の価値観や認識を最優先してしまうのではないだろうか。**」

社会でのLGBTQの扱われ方に課題があるように思います。例えば、テレビに出演しているゲイやトランスジェンダーの方がいじられて、笑われる場面を多く目にします。それを何度も目にすることで、LGBTQの人たちをいじめの対象やネタにしていいたいという価値観が広がり、当事者にもその価値観が取り込まれていくというところがあると感じています。

世界的な調査会社のイプソス社が27カ国を対象にした調査によれば、「親戚、友人、同僚にLGBTQの人はいるか」という問いに対して、27カ国中、日本

はほぼ最下位でした。では、LGBTQの人が日本には少ないのかというとそうではなく、日本で行われたいくつかの調査では、だいたい3〜9%ぐらいの人が当事者だと回答しています。これは、1クラスが50人だったら、その中に1〜4人ぐらいのLGBTQの人がいるかもしれないということですよ。しかし、27カ国中最下位であることが示しているように、周りにLGBTQの人がいると思われていない。国によっては、同性愛行為が見つかるといまだに死刑になるところもあります。日本は、法的に罰されることがないにもかかわらず、当事者が周りに自分のことを言えない社会を作り出しているのではないのでしょうか。

またLGBTQでなくとも、「男の子だから泣くんじゃない」という言葉に、傷ついている子どももいるのではないのでしょうか。男らしく、女らしくありなさいとか、結婚しなさいなど、ジェンダーでその人の生き方を決めつけるような言葉を投げかけていないでしょうか。さまざまな生き方があることを繰り返しながら、いく必要があると思います。

互いを認めあい、尊重すること

——「**さまざまな生き方を学ぶということとは、そのいのちに目を向けていくことだと感じます。吉田さんは「いのち」ということをどのように考えておられますか。**」

若い頃、自分はなぜこのようになってしまったのかと悩み、一生懸命に勉強し

た。嘘で自分を固めていくと、真には心を開けず、常に周囲の人との壁を感じていました。しかし、そういうことにも慣れ切っていて、実は苦しいと感じていたことや、医療機関に問題があることも気づいていませんでした。

転機が訪れたのは、トランスジェンダーの子のお母さんとお話した時です。その子は、誰にも出生時に割り当てられた性別への違和感について相談できず、自分でホルモン剤をインターネットで個人輸入して服用し、健康被害を起こしていたのです。そういうことを医療機関で相談できないのは、とてもよくないのではないかと初めて気づいた瞬間でした。その後、LGBTQの人の医療機関での受診体験を聞くと、多くの課題に気づかれました。医療機関の問診票には、性別欄があり、トランスジェンダーの方の場合、男女のどちらかに丸をつけるのが辛く、受診を避ける原因となることがあります。また、医療従事者に知識がないことで、何度も本人確認をされ、疑いを持たれてしまう



が長くありました。その教会から離れ、自分を取り戻す中で、多様な性的指向や性自認も「神のつくられたものである」と考える牧師さんとお会いすることができました。LGBTQと医療に関わる活動についても、自分がやりたいことをやっているだけで、神様からはよしとされていないのかという恐怖が以前にはありましたが、今はそれがなくなつて、神は自分をこのようにつくられて、それは自分に与えられたものであると感じるようになりました。自分のいのちに近い信仰の場で、自分の方が否定されないことはとても大切なことだと思っています。

医師としての歩みの中で思うのは、いのちとは、人とのつながりの中で日々を暮らしていくことではないかということです。患者さんにとって入院している期間は、コロナ下ということもあり、周りの人と断絶された非日常の連続です。私も感染対策のため一人で食事をする期間が続いた時、とてもつらく、自分もつながりの中で生きていることを強く感じるようになりました。

性に関しての感じ方やあり方は一人ひとり違います。多様な生き方を、「あなたはおかしい」と否定するのではなく、そういう方もあるのだとお互いを認めあい、尊重しあひながらつながっていくことを通して社会は豊かになるのではないのでしょうか。

自分のためのものではない私のいのち。これからも、どう役立てることができるのかを考え、活動していきたいと思っています。(一)

多様な性——LGBTQと医療——

インタビュー ● 吉田 絵理子さん

自分らしく生きたい。誰もが抱く思い。しかし、LGBTQ、性的マイノリティーであるがゆえに生きづらさを感じる人たちがいます。さまざまな生き方や価値観を認めあつて生きる。その大切さはわかっていても、自分と異なるものを受け入れることに対して戸惑いや抵抗を感じることはないでしょうか。医療

現場における性の多様性について啓発する「一般社団法人にじいろドクターズ」の理事で、LGBTQ当事者医師として講演、啓発活動を行っている吉田絵理子さん。LGBTQ、ひいてはすべての人びとが公平に生きることのできる社会とは。吉田さんのお話を通して、人間の相を考えます。



1979年生まれ。2003年京都大学理学部卒業、2007年大阪大学医学部卒業。現在、川崎協同病院総合診療科科長。病院で勤務しながら、LGBTQと医学教育に関わる研究を行う。2018年にバイセクシュアル当事者であることをカミングアウトし、主に医療従事者を対象に、LGBTQの人びとのケアに関する講演やワークショップを開始。2021年には医師の仲間と一般社団法人にじいろドクターズを設立。すべての人が医療機関に安心して受診でき、適切な医療を受けられることを目指して活動している。

この紙面では、さまざまな人を通して、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、**宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」**の学びを深めていきたいと思います。

LGBTQとは？

——「**LGBTQとはどういうことなのか教えていただけますか。**」

LGBTQは、性的マイノリティーの総称として使われている言葉です。性的指向と性自認という概念を知っておくと理解しやすくなります。性的指向は、どのような性別の人に恋愛や性愛の感情を抱くか、抱かないか。性自認は自分自身に対しての性に関する深い認識のことを指します。

「レズビアン」は、性自認が女性で、女性に性的対象、恋愛の感情を抱く人。「ゲイ」は性自認が男性で、男性に性的対象、恋愛の感情を抱く人。「バイセクシュアル」は、同性にも異性にもそういった感情を抱き得る人。「トランスジェンダー」は、出生時に割り当てられた性別、日本では戸籍上の性別のことですが、それと異なる性自認を持つ人。「Q」は、次のクエスチョニングやクイアのことを表します。↘

「クエスチョニング」は、自分の性自認や性的指向を探索中だったり、決めつけたくないと感じている人。「クイア」はもっと広い概念で、いわゆる性のスタンダードで規範的な生き方とは異なる生き方をしている人たちを指します。他にもさまざまなセクシュアリティの人について、LGBTQという言葉が包括的な表現としてよく使われています。これらの言葉は、いわゆるマジョリティー(多数派)からマイノリティー(少数派)に名づけられたものではなく、マイノリティーが自分たちで作りあげてきた言葉です。また、「マイノリティー」という言葉には、数が少ない、少数派であるという意味に加え、マジョリティーとされている集団と異なるために偏見や差別にさらされやすく周縁化されているという意味も込められています。

また、服装や話し方によつて、自分の性を表現するかという性表現という概念もあります。

性自認、性的指向、性表現はとも多様です。例えば、出生時に割り当てら

れた性別が女性で、男性向けの服を着るのを好む人の中には、性自認が女性という人もいますし、性自認が男性という人もいます。

医療現場での課題

——「**人間は男性と女性の二種類ではなく、人はそれぞれ違っていて多様なのですね。私たちが思い込んでいたり、見ようとしていなかったりすること、出あえていない事実があると感じました。吉田さんが「にじいろドクターズ」を設立することになった経緯を教えてくださいませんか。**」

社会的にマイノリティーとされているものを受け入れることの難しさ。これは当事者も一緒です。私は中学生の頃「自分は周りとは違うのではないか」と自覚しましたが、「私は変態だ」と思っていました。当事者が自分自身に偏見をもつこともあるのです。カミングアウトする前は、当事者であることを隠すために、日常的に細かい嘘を重ねていまし

た。嘘で自分を固めていくと、真には心を開けず、常に周囲の人との壁を感じていました。しかし、そういうことにも慣れ切っていて、実は苦しいと感じていたことや、医療機関に問題があることも気づいていませんでした。

転機が訪れたのは、トランスジェンダーの子のお母さんとお話した時です。その子は、誰にも出生時に割り当てられた性別への違和感について相談できず、自分でホルモン剤をインターネットで個人輸入して服用し、健康被害を起こしていたのです。そういうことを医療機関で相談できないのは、とてもよくないのではないかと初めて気づいた瞬間でした。その後、LGBTQの人の医療機関での受診体験を聞くと、多くの課題に気づかれました。医療機関の問診票には、性別欄があり、トランスジェンダーの方の場合、男女のどちらかに丸をつけるのが辛く、受診を避ける原因となることがあります。また、医療従事者に知識がないことで、何度も本人確認をされ、疑いを持たれてしまう

ということも起こっています。また、同性のパートナーが法律上の家族でないからといって、病状説明に同席できなかったり、看取りの時の面会でさえ拒絶されるケースがまだまだあります。レズビアンの人びとは、自分はレズビアンだと産婦人科で話をしたら「何でそんな生き方をしているんだ。男性と結婚して子どもを産みなさい」と諭されたそうです。

医療現場での性の多様性への取り組みが必要であることを感じながら、またカミングアウトしていなかった時には、自分が積極的に活動することで当事者であることがばれてしまうことを恐れていました。そんな中で、2週間ほど両目が見えなくなるぶどう膜炎という病気に突然かかりました。私にとってそれは強烈な経験で、いつ何があるかわからない。自分はこのままでいいのか。本当にやりたいことをやろうと思ひ、LGBTQと医療についての活動を行っていく覚悟を決めました。

その頃に「にじいろドクターズ」の他のメ

通信員リレーレポート Vol.235

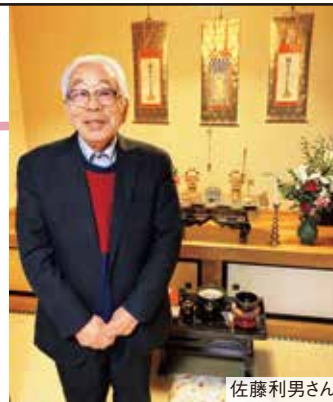
日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介しします。

当時の住職(現在は前住職)とは今も交流があり、さまざまな会話をし、その言葉や生き方に触れることを通して、自分のところに真宗の教えが届けられていると気づいた佐藤さん。かつては自分から遠い存在だった仏教書も、いつの間

にか前任職の持つっている本を自分でも買うようになった。本の中にある言葉が自身の生き方を問うてくる。私にとつて親しみ深い存在になっていき

「浄土真宗の教えを聞く」と思ったから、まず親鸞聖人の人柄に惚れないと始まらない。人から学ぶというのは、さまざまな言葉を教わるだけでなく、その人を尊敬することだ」とご自身の体験を振り返りながら、現代の聞法の場合抱く想いを語られていた。

そんな佐藤さんを変えたのは、30歳を迎える前に受式した真宗本廟での帰敬式だった。頭にかみそりが当てられたのを感じた時、なぜかぬぐい切れないほどの涙があふれた。「なぜ、自分はあの場で涙があふれたのだろう」と、当時の協議会会長や住職とともに真剣に学び始めたそう。自分の中にはないと思っていた宗教心が、心の底に芽生えていたのだ。だから聞法する中で出会う生き方を問う言葉に、心が動き出したという。



佐藤利男さん

東北教区 花巻組 安祥寺門徒
佐藤利男さん(83歳)

聞法の間との出会い

現在を生きる

大切にされている
推進員研修会講義録

東北教区通信員

藤原了

大切なを感じた。

かつては苦しい言葉であった「南無阿彌陀仏」。今は日常を暮らす自分の心の中へ届けられてくる。周囲の人びととの交流を通して、あるがままに生きる楽しさを述べられた佐藤さんのお姿から、あらためて人との出あいの大切さを感

「浄土真宗の教えを聞く」と思ったから、まず親鸞聖人の人柄に惚れないと始まらない。人から学ぶというのは、さまざまな言葉を教わるだけでなく、その人を尊敬することだ」とご自身の体験を振り返りながら、現代の聞法の場合抱く想いを語られていた。

「浄土真宗の教えを聞く」と思ったから、まず親鸞聖人の人柄に惚れないと始まらない。人から学ぶというのは、さまざまな言葉を教わるだけでなく、その人を尊敬することだ」とご自身の体験を振り返りながら、現代の聞法の場合抱く想いを語られていた。

80歳を前にして協議会会長の任を辞していた佐藤さんだったが、ロシア・ウクライナの情勢を目にするようになり、いのちが救われない人が溢れる中で会長を辞めることは、浄土真宗をないがしろにすることではないか、と目が覚めた思いだったという。去年再び会長に就任してから多くの人が聞法に訪れるのを見て、楽しいと感じられる聞法の場合求められていたとも実感したそう。

「浄土真宗の教えを聞く」と思ったから、まず親鸞聖人の人柄に惚れないと始まらない。人から学ぶというのは、さまざまな言葉を教わるだけでなく、その人を尊敬することだ」とご自身の体験を振り返りながら、現代の聞法の場合抱く想いを語られていた。

御同朋 御同行

からの問ひかけ

～是旃陀羅の課題～

第17回

親鸞聖人の御誕生の意義

「是旃陀羅」の課題から、今回は親鸞聖人の御誕生の意義について考えてみたいと思います。このことは、私たち一人ひとりにとつて親鸞聖人がどのような存在であるかを確かめることです。その手がかりとして、反対に親鸞聖人が私たち人間に存在をどのように見ておられたかをたずねたいと思います。

「唯信鈔文意」には、「りようし・あき人、さまざまのものは、みな、いし・かわらつづてのごとなるわれらなり」という、親鸞聖人の自己と他者への眼差しが記されています。

当時の社会状況や仏教教団の中では、他のいのちをとることで生計を立てる人びとや、商売を生業とする人びとは蔑まれ、救いの対象から排除されていました。親鸞聖人は、生きるためには社会的に悪とされることをしなければならぬ人びととなら変わらない我が身の自覚から、「われら」と受けとめられたのです。

この「われら」は、差別・被差別を超えた親鸞聖人の自己と他者への眼差しだと言えます。念仏の教えによって見出された人間の在り方への悲しみ・痛みから、「ともに歩まん」と呼びかけられているのです。それに対して、私たちの自己と他者への眼差しは、親鸞聖人を宗祖と仰ぎながら、誰かを排除していても疑問を感じることなく「われら」と語るものになっているのではないのでしょうか。

「是旃陀羅」の課題とは、親鸞聖人が頭かにされた念仏の教えを大切にしていながら、「旃陀羅」をはじめとする被差別の人びとを排除するという、念仏者としての矛盾を問うものです。私たちが念仏者として浄土を願うとは、すべての人と「ともに歩まん」という願いに生きるということなのです。親鸞聖人の御誕生の意義を確かめるということは、私たちの仏道の姿勢を問い確かめる機会をいただくことでもあります。

宗門が問われている『仏説観無量寿経』における「是旃陀羅」の語について、様々な視点からこの問題を考えていかなければなりません。このコーナーでは、これまでの歴史を振り返りながら、宗門に属するすべての人々が課題を共有できるよう情報を発信していきます。

この記事に関するお問い合わせ

解放運動推進本部

075-371-9247

kaho@higashihonganji.or.jp

慶讃寄席

桂小春團治 真宗落語

演目「親鸞で行こう」

入場無料

日時 3月25日(土)～4月8日(土)
第1部 9:30～ 第2部 11:00～
※3月27日のみ [第1部]13:30～ [第2部]15:00～
4月15日(土)～29日(土)
第1部 13:30～ 第2部 15:00～
※28、29日のみ [第1部]9:30～ [第2部]11:00～
会場 視聴覚ホール 公演時間 約30分



撮影：大亀京助

申込先 教区団体参拝受入センター

メール dantaisanpai@higashihonganji.or.jp

FAX 075-371-9204



桂小春團治師匠からのメッセージも視聴できます



4/1発売 最新刊

壁掛

ふと足を止め、日常を問い返す 31のメッセージ

お東さんの日めくりカレンダー

行灯法語

東本願寺周辺に設置され、夜道を行き交う人びとの足元を照らし親しまれている「法語行灯」。そこに掲示された法語と、その味わいを境内のイラストとともに綴る日めくりカレンダー。お土産にも最適。

東本願寺出版(編)
縦190mm×横110mm 17枚綴り 定価:770円(税込)

ご注文 お問い合わせは

東本願寺出版 HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189 詳しい書籍情報は 東本願寺出版 検索

御本尊は本山からお受けしましょう



「髻」
— 勝他・利養・名聞 —

『口伝鈔』(『真宗聖典』六六〇・六六一頁)の中に、親鸞聖人が法然上人のもとで学ばれていた頃の話が出てきます。(以下意訳)

あるお弟子仲間が、里心がついたので故郷に帰りたいと申し出られました。法然上人は「せっかく髪をそり修学に励んだのに、髻を切らずに去っていくのですね」と嘆かれます。そのお弟子は、一旦は出発したのですが、その言葉が気になり引き返してきます。そして、「私は出家・得度して何年も経つのに、髻を切っていないとはどういうことでしょうか」と尋ねられました。

すると法然上人は、「あなたには勝他・利養・名聞という三つの髻があります。私が伝えた大事な教えを書きためて、それを持って故郷に帰るのですね。そして、私はこれだけのことを学んだのだと言つては、人の上に立とうとしているのでしょうか。これは勝他ではないのですか。また、そのことで立派なお坊さんだと言われたいのでしょうか。これは名聞を願っているのですね。また、その結果としてお布施や寄付をしていただけの人を望んでいるのでしょうか。それは利養のためですよね。この三つの髻をそり落とすことがない限り、法師とはいえないものです。ですから髻を切らずに去っていくのですねと申したのです」と言われたとのことでした。

近くでこのやり取りを聞いていた親鸞聖人は、自分のこととしてお聞きになったことでしょうか。

親鸞聖人に
であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。
大谷中・高等学校「京都」で
生徒とともに学ばれている乾さんと、
中高生の素直(リアル)な問いを手がかりに、
「人と生まれたことの意味」を
親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



乾 文雄
京都教区近江第5組
正念寺住職
大谷中学・高等学校講師

「も」とどろいて何ですか？」

「頭の上で髪を集めて束ねた、その根元のこと。出家の僧侶はそれを切り落とすことから、髻はまあ、在家の象徴やな。このお話に出てくる、目に見えない髻はみんなにもあるやろ？」

「一つ目の『勝他』は勝ち負けにこだわること。勝つことが大事、負けるのは嫌。また、人の上に立ちたいという欲望やな。『利養』は損か得かにこだわる心。とにかく儲けたい、だましてでも得したい。最後の『名聞』は好評か不評か。いい人だと思われたいという心やな。で、みんなの中で一番強いのはどれ？」

「はい、はい、はい！全部！(笑)」
「そつやな。多かれ少なかれ私にも全部あるな」

「先生、時期によつて変わるわ。例えば、クラブの試合とかテストの前やったら絶対に勝他！」

「クラス替えしたら、最初のうちは名聞！つまらない奴やと思われたくないし、嫌われたくないし」

「わかるわ。私も結婚する前、奥さんとデートしていた時は、とにかくええかつこばかりして…。何を語ってるんやろ。恥ずかし」

「という」で、今日もアンケートを取ります。一番身近で、身に覚えのある髻はどれ？」

「結果発表！1位名聞、2位勝他、3位利養。やつぱり、人に認められたいんやな。お金の心配をするのはもう少し大人になってからってことかな」

「でもな先生、将来商売したら、それら利養を考えるやろ。それはあかんことなん？」

「ええ質問やな！そつやねん。法

然さんは髻はあかん、捨てなさいって言つたんやろつか？でも、それなら、『煩惱を断つて悟りを開く』という道になるな」

「髻があることにも、また髻の実現を最優先で生きていることにも気づかず、自分はこれでいいと思つて生きている姿を見て、法然さんは嘆かしたんだと違つかな」

「ズルをしても勝てばいい。ごまかして嘘をついて、それでも得したい。いい人を演じて、努力もせずに実力以上に評価されたい。本当に大事なことを見失うと、そんな自分を育ててしまつけどそれでいいかい？私にはこう聞こえてきたんやけど、みんなはどう思つ？」

厳しい修行に耐えて「髻」をなくす道があります。それは難しい道です。また、「髻」をなくすのではなく、それが私の中にあることを自覚し、振り回されそうになったら、立ち止まる力が与えられる教えがあります。

誠に知りぬ。悲しきかな、愚禿鸞、愛欲の広海に沈没し、名利の太山に迷惑して、定聚の数に入ることを喜ばず、真証の証に近づくことを快しまざることを、恥ずべし、傷むべしと。

(『教行信証』(信巻)『真宗聖典』二五二頁)
(意訳：身をもつて知りました。悲しいことに、この愚禿親鸞は愛欲の広い海に沈みおぼれ、名利の大きな山で道を見失い、浄土で仏になることが約束された人ひとりの仲間に入ることをうれいとも思わず、真実のさとりに近づくことをたのしいとも思つておりません、恥ずかしくまた痛々しいことです。)

晩年の親鸞聖人も、髻に振り回されそうになつては立ち止まつておられます。自己に対する悲しみ・恥ずかしさ・痛み、そして感謝の念と共に。

慶讃法要 — 50年に一度のご縁にあう —

真宗本廟がお念仏の響きで満たされますように



慶讃法要は、阿弥陀堂と御影堂で、同時に法要が動きます。これは、史上初めての法要の形式です。二つの御堂のそれぞれの意義をあきらかにしながら、同時に、一つの御堂として、一体として法要が営まれます。

阿弥陀堂の内陣は、浄土三部経に説かれる浄土の世界を表しています。御影堂は、宗祖聖人のお住まい(御座所)であり、宗祖とともにお念仏の教えにたずねていく聞法の道場です。阿弥陀堂において、浄土の荘厳の世界に触れ、そのいわれを御影堂において、宗祖のお言葉に学んでいきます。

御影堂と阿弥陀堂は、それぞれ別の御堂として建てられていますが、宗祖としての親鸞聖人に出会い、ともに念仏申すものとなっていくことが形に表れているのです。

このたびの法要では、門首をはじめとする真宗門徒が、両堂に参拝することで、ともどもに宗祖の御誕生を讃仰し、宗祖親鸞聖人のみ教えに我が身を確かめてまいりたいと思います。

法要次第(平日法要) 約2時間

僧侶も、両堂に分かれて出仕します。法要中の移動はありません。門首、新門は阿弥陀堂、御影堂に分かれて出仕します。



阿弥陀堂において登高座した門首が、宗祖の御誕生、立教開宗を讃仰する表白を読みます。その後、伽陀があります。

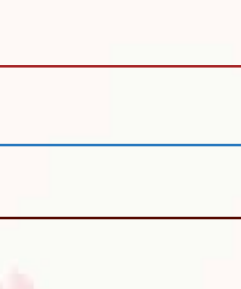


阿弥陀堂の内陣は、浄土三部経の世界を表していることから、御経(阿弥陀経)は阿弥陀堂からの調声で、その声は御影堂にも流れます。

御経が終わったら、阿弥陀堂で下高座があり、門首が復座します。その後御影堂の調声で「正信偈」が動きます。

(午後法要) 13時
(午前法要) 9時40分

(午後法要) 13時20分
(午前法要) 10時

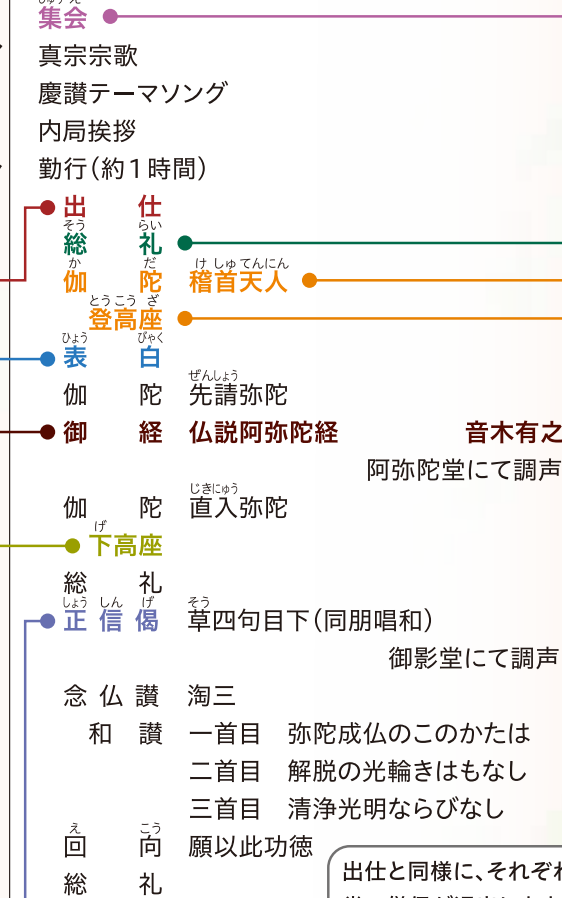


阿弥陀堂において登高座した門首が、宗祖の御誕生、立教開宗を讃仰する表白を読みます。その後、伽陀があります。



阿弥陀堂の内陣は、浄土三部経の世界を表していることから、御経(阿弥陀経)は阿弥陀堂からの調声で、その声は御影堂にも流れます。

御経が終わったら、阿弥陀堂で下高座があり、門首が復座します。その後御影堂の調声で「正信偈」が動きます。



正信偈は御影堂からの調声で、その声が阿弥陀堂にも流れます。御影堂は私たちの聞法の道場です。親鸞聖人の主著『教行信証』の中の「正信偈」、そしてご和讃をみなさんで唱和しましょう。



阿弥陀堂、御影堂それぞれで感話と法話があります。最後までお聞きください。

【上記以外の時間】

4月13日	9時20分～
9～11日	10時20分～
15・22日	11時30分～
8・29日	13時～
12日	13時10分～

※14・30日はありません。

※本頁の法要等の写真は、実際の慶讃法要のものではありません。

今号では、平日法要の様子と、3月24日にオープンした「東本願寺前市民緑地」で法要期間中開催される『おひがしさん門前フェスタEN』についてご紹介します。

両堂ともに椅子席です。当日お越しの場合の自由席もご用意しております。どなたでもご参拝いただけますので、ぜひ法要にお参りください。

慶讃特設サイト⇒

ENの詳細はこちらから

おひがしさん門前フェスタEN — 東本願寺 慶讃法要 特別ver (えん) 3月25日(土)～4月29日(土) 期間

東本願寺前市民緑地での催し

ふらっと、ひと息。あかるい、ひと時。EN Terrace (エンテラス)

本格的にオープンした「東本願寺前市民緑地」では、京都のお土産や雑貨、フードが並んだマルシェをはじめ、期間後半の平日にはキッチンカーが登場！週末には、子ども向けの限定遊具も登場します。

期間中のイベント

京の名産品展

3/25(土)～4/9(日)
出店：一般社団法人京都物産出品協会(京都名店会)
京都のお土産にぴったりの品々やグルメが店出します。

キッチンカー

4/10～4/28の平日
※4/12のみイベント開催のためお休み
毎日2台程度キッチンカーが登場します。

門前マルシェ

4/15(土)・16(日)・22(土)・23(日)・29(土)
飲食をはじめ、ワークショップや京都市立芸術大学工芸科の学生による「マルシェ」も開催。

こどもテラス

期間中の土日
■毎週土曜日
大きなブロックで遊べるプレイゾーンが出現します。
■毎週日曜日
ワークショップや親子ヨガなどのイベントを行います。
※一部開催なしの日あり。

特別イベント

期間中は、さまざまな企業や団体が市民緑地でイベントを開催します。

音楽コンサート [主催：イベントデック]
4月15日(土)・22日(土)
各日18:00～20:00(有料・要申込)
会場 御影堂門下・市民緑地
オーケストラと二胡のコンサートが行われます。
チケットのお求めはこちら⇒

大谷婦人会手作り市
4月9日(日)・10日(月) 午前
対象：小学生
参加費：500円
※詳細は上記QRコードよりENのHPをご覧ください。

ツリークライミング
[主催：七条商店街振興組合]
4月16日(日) 1日4回
対象：小学生
参加費：500円
※詳細は上記QRコードよりENのHPをご覧ください。

渉成園での催し

もっと、いろんな、たのしみかた。

EN+EN+GARDEN (エンエンガーデン)

渉成園ライトアップ
3月25日(土)～4月29日(土) 庭園維持寄付金：500円
時間：17:30～20:30(最終入場20:00)
桜咲く渉成園で、春としては初開催となる「ライトアップ」を実施します。色鮮やかな渉成園の姿をぜひご覧ください。
※4月9日～14日はライトダウンイベント(月夜書屋)を開催します。



拝観時間
[日中] 9:00～17:00(最終受付16:30)
[夜間] 17:30～20:30(最終受付20:00)
※日中・夜間の間は一度閉園します。
※庭園維持のため、渉成園への入園の際はお一人様500円以上のご協力をお願いしています。

月夜書屋 4月9日(日)～14日(金)
秋に好評をいただいた「月夜書屋」を春も開催！お好きな本と飲み物を手に、春の月夜の渉成園をお楽しみください。
時間：17:30～20:30(最終入場20:00)

音楽コンサート 4月22日(土)
時間：16:30～ 参加費：無料
金沢を中心に活動するコーラスユニット「VOX OF JOY」のコンサートが開催されます。

カフェ
4月17日(月)～29日(土) (予定)
お酒もお楽しみいただけます。
京都光華女子大学 プロジェクションマッピング
4月28日(金)・29日(土) (予定)

東本願寺前花灯路
夜間の東本願寺周辺エリアを花灯路が彩ります。夜の散策もお楽しみください。
主催：東本願寺前商店会

おてらおやつクラブ

皆さまからの「おそなえ」をお預かりし、真宗本廟(東本願寺)内の御本尊に「おそなえ」した後、経済的に困難な状況にあるご家庭や、支援を必要としている子どもたちに「おすわけ」します。新型コロナウイルスの影響等により、多くの子どもたちの貧困が深刻化しています。ご協力をお願いいたします。

期 間 4月1日～5月5日
対象物 お米、お菓子、乾麺、レトルト食品、飲み物、缶詰、調味料等の食品類、洗剤等の生活用品
※食品類は消費期限が2023年6月10日以降のもの
※お米 玄米：2年以内に収穫されたもの
白米：精米してから夏を越さずに1年以内。
複数の精米日が混入するものは半年以内。
※精米日を記入ください。

方 法 しんらん交流館1階ロビーへご持参ください(9:00～17:00)
①慶讃法要期間中は「慶讃法要本部(白洲)」でも受け付けます。(讃仰期間を除く)
②5月5日(子どものつどいin東本願寺)は「青少年センターブース(白洲)」でも受け付けます。
※郵送の場合は下記へお送りください。
受付・問い合わせ 青少年センター
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199
TEL: 075-354-3440 メール: oyc@higashihonganji.or.jp (9:00～17:00)

諸法要のご案内

4月1日(土)
師徳奉讃法要
10:00～(約1時間)
〈阿弥陀堂〉

4月2日(日)
全戦没者追弔法要
9:30～(約2時間)
〈御影堂〉

テーマ 人間はなぜ争うのか

「追弔の偈」朗読：竹下景子氏(俳優) 記念講演：四衛亮氏(岐阜高山教区不遑寺)

戦争でいのちを奪われた方々を憶念し、仏が願われた「兵戈無用」(軍隊も武器もいらぬ)の教えから、私たちの今を問い直す法要です。



4月3日(月)
相続講員物語者追弔会 兼 婦敬式式物故者追弔会
10:00～(約1時間)
〈御影堂〉

きょうさん
慶讃NEWS5月10日 『宗祖親鸞聖人著作集 一』を発行
— 宗祖の著作をとおしてあらためて学ぶ機縁に —

聖教編纂室にて慶讃記念事業として編纂作業を進めている『宗祖親鸞聖人著作集』の第一弾として『宗祖親鸞聖人著作集一』を5月10日に発行します。

本著作集は、宗祖の著作の原文をとおしてあらためて真宗の教えを学んでいく機縁となることを願い、宗祖撰述・書写の聖教の翻刻文と合わせ、『真宗聖典 第二版』収録の本文を併載したもの。第一弾では、宗祖の主著である『教行信証』を収録しています。

『宗祖親鸞聖人著作集一』の体裁は、A5判・540頁。翻刻文と書き下し

翻刻文、下段には、書き下し文を掲載しています。翻刻文は、適宜改行を加え、宗祖の付された右訓や左訓なども見ていただけるよう表記しています。書き下し文は、坂東本に記される返り点や送り仮名に忠実に書き下し、可能な限り漢字を用いています。また、学習の便を考慮して、句読点や改行、典拠等に括弧を補っているほか、宗祖の付された訓を参照しながらすべての漢字に振り仮名を付しています。なお、今後『真宗聖典 第二版』と合わせて活用いただくこと願い、聖典の該当頁を併載し、学習する際の利便も考慮しています。

『真宗聖典 第二版』については、2024年春の刊行を予定しています。明確な刊行日が定まり次第、あらためてお知らせします。

【ご予約は東本願寺出版まで】

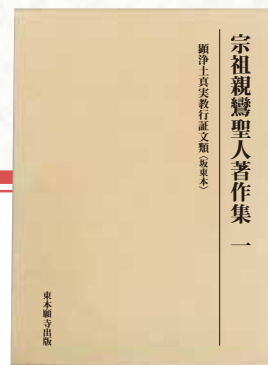
宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・

立教開宗八百年慶讃記念

『宗祖親鸞聖人著作集 一』

聖教編纂室 編/東本願寺出版 発行

A5判・箱入り・540頁 定価 4,950円(税込)



上段: 翻刻文



下段: 書き下し文

文を対照しながら宗祖の言葉に忠実に立ち帰って学ぶことができる真宗門徒の聞法のテキストとして、さらには親鸞研究の分野でも活用いただくことを願い編纂を行いました。上段に『教行信証』(坂東本)の

「ペーパークラフトで学ぼう
お内仏のお給仕」を発行

(A3)

このたび、特に青少幼年世代に、お内仏のお給仕に触れ、真宗の仏事をより身近に感じていただくため、

「ペーパークラフトで学ぼう お内仏のお給仕」を発行しました。

このペーパークラフトは、ハサミやノリを使用せずに組み立てられるため、安全に楽しく学べます。同朋の会や子ども会をはじめとした、さまざまな聞法のお給仕の体験や練習にご活用いただけるよう、5月末に全寺院に見本1部を発送するほか、先行して慶讃法要期間中に憩いのひろばや総合受付などで無償配布します。

お内仏の形状は、装飾や様式に地域性があり、作りや大きさもさまざまですが、現代に広く用いられている形状をもとにしています。お孫さんやお子さんと一緒にペーパークラフトを作りながらお内仏のお給仕を楽しく学んでみませんか。ご入用の場合は、青少幼年センター(TEL075-354-3440)へお問い合わせください。

慶讃法要リハーサルが行われました

2月22日、阿弥陀堂、御影堂において慶讃法要のリハーサルが行われ、大谷暢裕門首、大谷裕新門をはじめ、全国の僧侶や楽僧、職員など総勢約200人が参加しました。これまで、数回にわたってパートごとの確認が進められてきましたが、今回は法要当日を想定した最終のリハーサルとなりました。当日は、勤行前の慶讃テーマソングの披露と内局挨拶に続き、結願(各期の法要最終日)の次第に沿い、僧侶の出仕から退出までの細かな動きや、両堂の音響の確認などが行われました。リハーサルの終わりには、大谷暢裕門首から「慶讃法要は、門首として初めてお迎えする大きな法要で、心が引き締まります。みなさんとともに法要をお勤めできる日を楽しみにしております」と決意が述べられました。このリハーサルを受け、30座の法要に向けてさらに細やかな準備が各所で行われます。

慶讃法要にあわせてオリジナルの
クラフトビールが誕生しました!

京都駅前、東本願寺門前地域の魅力向上に取り組む「おひがしさん門前未来プロジェクト」から「京都醸造」とともに開発したオリジナルクラフトビール「陽が知る(ひがしる)」が誕生しました。過去・現在・未来のつながりをイメージし、太陽を表す大小さまざまな丸がデザインされています。ぜひご賞味ください。



350ml缶入り(アルコール分5.0%)

ご購入は
こちらから



植彌加藤造園株式会社、株式会社エフエム京都、一般社団法人公共事業研究開発、真宗大谷派(東本願寺)、株式会社ティーエーティー(20PIECES、TUNE STAY)、UDS株式会社(ホテルカンラ京都)、THE THOUSAND KYOTO、京都醸造株式会社の8法人が参画。おひがしさん(東本願寺)を中心とした門前地域の魅力を再発見し、情報発信、イベントなどを通じて人と人、異なる文化や価値観の交わる場としての地域づくりに取り組んでいます。

「ARTISTS' FAIR KYOTO 2023」の
オープンに先立ち
高さ約12mのこけしが御影堂門前に展示!

3月4日から12日までARTISTS' FAIR KYOTOが開催されました。今年は、渉成園をはじめ、東本願寺周辺エリアが会場の一つとなり、渉成園では、通常非公開の茶室などに、国際的に活躍する14組のアーティストと若手アーティスト9組による作品が展示されました。

2月23日からは東本願寺前市民緑地の一部にオープンに先立つイベントとして、アートユニット「Yotta」によるこけしをモチーフにした巨大アート作品「花子(hanako)」が展示されました。突如門前に現れた大きなこけしを目にした多くの方々が足を止めて御影堂門とともに「花子」を撮影していました。





慶讃法要記念『若き日の親鸞』をぜひご観覧ください

このたびの慶讃法要を記念して上演される『若き日の親鸞』。ご門徒料金での事前申込が始まっています。ぜひご観覧ください。

五木寛之著『親鸞』(講談社刊)より「青春篇」を原作として、京都の南座が舞台化。平安末期の激動の京都を舞台に、人生と信仰に悩む親鸞聖人の半生を描きます。



藤山扇治郎
範宴・緯空・善信(後の親鸞)



はいだしょうこ
(恵信尼)



藤川矢之輔
(法然)



三林京子
(サヨ)

宗派関係学校
大谷中学・高校
大阪卒業生

公演期間	2023年4月10日(月)~29日(土)
会場	南座(京都市東山区四条大橋東詰)
開演時間	午前の部/10時30分~ 午後の部/14時30分~
観劇料(税込)	S席(1・2階)/12,000円 A席(3階)/6,000円
	ご門徒料金 ※事前申込制
	S席(1・2階)/7,000円 A席(3階)/4,000円
主催・製作	松竹株式会社 推薦・後援 真宗教団連合 ほか

サヨ役 三林京子さん(宗派関係学校卒業生)が宗務所を訪問

昨年、この演劇への出演をご縁に、三林京子さんが宗務所を訪問されました。三林さんは宗派関係学校である大谷中学・高等学校(大阪)の卒業生で、数多くのテレビドラマや映画に出演し、活躍されています。



来所された三林さん(古賀参務と)

三林京子さんからのコメント

「親鸞聖人の時代と、今の時代は似ていると思います。皆、どこかに不安を感じているからこそ、ちゃんと地に足をつけて、生きることの原点に戻って考える時期が来ているのではないのでしょうか。そういうことを、このお芝居を見て感じていただきたいと思います」

①ご予約 → ②ご入金 → ③チケット発券(3月15日以降)

※観劇にはチケットが必要です。ご予約・入金後、必ずチケットを発券してください。

予約方法

①電話受付(自動音声)

受付中~各公演3日前
0570-08-9920(通話料有料)
Cコード 126-105

②インターネット受付

受付中~各公演3日前
WEB画面に従って
ご予約ください



特別講義

「宗祖親鸞聖人と『坂東本 教行信証』」〈全5回〉を順次公開

三木彰円氏による『教行信証』(坂東本)に関する講義を東本願寺公式YouTubeチャンネルにて、順次公開しています。ぜひご視聴ください。



公開講演会『教行信証』(坂東本) **事前申込不要・参加費無料・自由席**

【日時】4月13日(木)14:00~17:30
【会場】しんらん交流館2階 大谷ホール
【講題】聞思の人・宗祖親鸞聖人-『坂東本 教行信証』を通して-
【講師】三木彰円氏(聖教編纂室特別編纂研究員、大谷大学教授)
【お問い合わせ】慶讃事業本部事務局 TEL:075-371-9220



金沢教区

参議会議員 補欠選挙

蔵本久雄参議会議員の逝去に伴う補欠選挙の結果、村谷哲也氏(金沢教区第10組徳願寺門徒)が当選。

ご案内

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、休館日・開館時間及び掲載内容について、中止・延期もしくは日程等を変更する場合がありますのでご了承ください。

真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上る

◇**晨朝(おあさじ)**【場所】阿弥陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時~

◇**晨朝法話** 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃~

◇**慶讃法要法話** 【場所】御影堂・阿弥陀堂 ※時間は7面をご参照ください。

◇**参拝接待所ギャラリー** 【時間】9時~16時
慶讃テーマ館 立教開宗の書「教行信証」展
開催中~4月29日

※慶讃法要期間(3月25日~4月8日、4月15日~29日)の開館時間は8時30分~16時30分

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで

検索

しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地

※慶讃法要が勤まるにあたり、開館日・行事を変更しておりますのでご注意ください。
開館時間/9時~17時 休館日/4月30日~5月7日

◇**4月の定例法話・東本願寺日曜講演** 5月7日まで休会

◇**交流ギャラリー(1階)** 6月中旬まで休止

◇**しんらん交流館 Tera School** 5月8日まで休止



東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280
【開室時間】毎週木曜日
13時~17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。

検索

トルコ南東部を震源とするトルコ・シリア地震によって、お亡くなりになった方々に衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

真宗大谷派(東本願寺)

We wish to express our heartfelt condolences to the thousands of people who have lost loved ones in the devastating earthquakes which have recently struck Turkey and Syria. We also wish to extend our deepest sympathies to all those who have been strongly affected by these terrible disasters.
Shinshū Ōtani-ha (Higashi Honganji)

宗派は、トルコ・シリア両国で被災された方々の救援・復興活動を支援するため、日本赤十字社を通じて宗派見舞金100万円を給付することを決定し、2月15日に日本赤十字社京都府支部において酒井良参務(災害救援本部長)から上田敏勝同支部事務局長兼監査委員事務室長に目録が手交されました。

また、下記の口座にて、「トルコ・シリア地震」の救援金を募っております。お届けいただいた災害救援金は、日本赤十字社等を通じ、被災地域で行われる救援活動等に使用いたします。皆さまの温かいご支援、ご協力をお願いいたします。



目録手交の様子

【救援金口座】郵便振替口座番号00920-3-203053

【加入者名】真宗大谷派

※通信欄に「トルコ・シリア地震救援金」と記載ください。

出版物価格改定のお知らせ

昨今の紙代や燃料費の高騰により、本年7月1日より下記のとおり『真宗大谷派勤行集』(赤本)の一部価格改定を行うこととなりました。また、和綴の小判(A6判)につきましては、現在庫がなくなり次第販売を終了いたします(小判は洋装のみとなります)。

東本願寺出版をご利用の皆様におかれましては、ご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどお願いいたします。

書籍名	改定前(税込)	改定後(税込)
『真宗大谷派勤行集』(洋装・大判)	385円	440円
『真宗大谷派勤行集』(洋装・小判)	220円	275円

東本願寺出版

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

第31回

「父」との出会い

山陽教区 第2組 法性寺 松岡 彰

聞

今月の 法話

「仏法は、聴聞にきわまることなり」(蓮如上人御一代記聞書)と教えられているように、真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

今から十七年前に、私は妻とともに養子縁組をして、義父になる住職(当時)がお預かりしていたお寺に入寺しました。入寺に際し、ご門徒のみなさまは手厚く迎えてくださいました。それもそのはず、義父もまた養子縁組であったため、これまで後継者に悩まされてきたことが要因であったのでしよう。

義父は、非常に真面目な性格で、何につけてもきっちりした人でした。本堂のお荘厳、儀式作法、お花、お茶の淹れ方まで教えてもらいました。右も左もわからない私にとってありがたい反面、時には煩わしく感じることもありました。義父もいい加減な私の性格に気を揉んでいたことでしょう。しかし、良好な関係を保つためにも、順じることがしかるべき選択だと考えていました。そこには、常に血縁のない親子関係という見えない壁があったように思います。

認知症を患い、施設にお世話になることになり、共に生活することはなくなりましたが、面会のたびにお寺のこと、ご門徒のことを心配していました。娘が産まれ、連れて行った時には、見たこともないほど優しい眼

差しで抱っこして喜んでくれました。少しずつ記憶を失っていくことに不安を抱いて、「正信偈」だけは忘れていないだろうか」と、ベッドで寝ながら諳んじる姿を鮮明に覚えています。

そして、十三年前に八十九歳で還浄しました。無事に葬儀を執り行い、本堂で中陰のお勤めをしていた時でした。二歳になる娘が、義父の遺影を指差して、「じいちゃん、じいちゃん」とうれしそうに私に呼びかけてきました。その無垢な姿に、それまで私の中に築いていた血の繋がりのような概念の壁が崩れはじめたのでした。私の執われた思いとは関係なく、義父は娘にとっては紛れもなく優しく膝に抱いてもらった「じいちゃん」だったのです。

一切の有情は、みなもつて世々生々の父母兄弟なり。

『歎異抄』『真宗聖典』六二八頁

悩み苦しみを抱える私たち衆生は、遠い過去からのちを繋いできたことを想えば、親しい人のみならず、道行く人も父母であり、あるいは兄弟であった、といのちの根源からの呼びかけに応答された親鸞聖人の言葉であるといたてております。

家族という枠に執われ、血縁である

かないかという壁を築いて、義父と向き合おうとしてこなかったのは、私自身だったのです。義父の死をきっかけに、あらためて「父」として出遇い直したように思います。

父は、お寺に入寺するまで宗務役員として長年山陽教区でお世話になりました。山陽教区は姫路に教務所が設置されていますが、広島に別院に出張所を設けて、住み込みで主計として従事していたと聞いています。

また、父は被爆者ということも聞いたのですが、それが広島ではなく長崎であったことを知らなかった門徒さん方も少なくありません。語ることもなく、尋ねると機嫌を悪くするので私もそれ以上何も聞かずにいました。しかし、施設へ入所したある時に、父が突然被爆体験を語り始めたのです。

二十二歳の時に長崎教務所に赴任して間もない一九四五年八月九日、書類の整理をしていたところ、閃光とともに爆風が押し寄せました。地震なのか何なのかわからないが、とにかく散乱した物を片付けなければと拾い集めたそうです。様子がおかしいと外へ出てみると、目を覆いたくなるような惨状が広がっていました。教務所は山裾にあり、爆風を受けにくい地

域にあったため全壊を免れました。その日から毎日のように、人骨が動物の骨かもわからないぐらいい、たくさんのお骨を預かり、読経した様子を涙ながら語ってくれました。

それまで、なぜ貴重な体験を語らないのかと思っていたのですが、語ることでできないほど、辛く悲しい体験だったことを思い知りました。私に話してくれたのは、どうしてもこのだけは伝えなければならぬと思ったのかもしれない。聞いた者の責任として「非核非戦」という願いを問いたずねていきたいと思っています。

優しかった言葉もそうですが、自分にとって厳しい言葉も忘れることができません。寧ろ、厳しい言葉の方が強く残り、私を育ててくれたるように思います。その厳しさは、実は住職となつてこの大切な場を預かり、相続していく私のことを案じて敢えてそう接してくれていることを、あらためて気づかせていただきました。

昨年、ご門徒のみなさまと父の十三回忌法要をお勤めしました。きちんと整えられた荘厳に、遺影の頬が緩んだように見えるのは気のせいでしょうか。



京扇子司

京扇堂

●本 店●
京都市下京区東洞院通正面上る筒金町46
Tel.075-371-4151

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075) 351-6325
フリ-FAX 0120-89-5255
定休日：日曜日

皆様の平安

平安は三つの信念で精進しています

- ①優良な商品を吟味し御調製
- ②価格も出来る限り勉強
- ③親切と誠意あるサービス

法衣、打敷、幕、会旗、念珠、
稚児貸衣裳
御本山用達

平安法衣店

京都市下京区東本願寺大門前(〒600-8153)
電話 京都(075)351-3681(代)
FAX (075)351-5563



宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念
紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前
TEL フリーダイヤル 0120-07-6391
FAX フリーダイヤル 0120-34-2816

<https://shibata-houten.com/>
(Webカタログ掲載・商品動画配信)

真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店



株式会社 柴田法衣店

宗教とは 信仰とは —カルト問題を通して考えよう—

第2回 真宗の教えからの視点

先月号から「宗教とは 信仰とは—カルト問題を通して考えよう—」を掲載しています。今月は、蓮如上人や、親鸞聖人の教えの言葉を通して学びます。

カルト問題は現代に限ったものではなく、蓮如上人の時代にも同じ性質の問題があったことが窺われます。カルト性の強いあり方について、真宗の教えではどのように語られてきたのでしょうか。

1 [師(先生)への依存]

帰するところの弥陀をすてて、ただ善知識ばかりを本とすべきこと、おおきなるあやまりなりとこころうべきものなり。

(『御文』第二帖／『真宗聖典』790頁)

訳 帰依する阿弥陀仏をすてて、ただ教えを伝えてくださる師ばかりを中心とすることは、大きな間違いである、とこころえるべきなのです。

蓮如上人は、信仰の中で、師(先生)だけに依存してしまうのは、大きな間違いだと指摘されています。

本願の教えを伝えてくれる師に出会うと、感動して、時にその師が救ってくれると錯覚してしまうことがありますが、ちがうですね。

確かに私たちにとって、師と出会うことは大切です。しかし、それは師に救われるのではなく、その師を通して、本願の教えに出会うということです。師に依存すると、「この先生がいなければ救われない」「この先生だけが唯一ほんとうの教えを知っている」などと決めつけ、他を否定することになりかねません。

蓮如上人の時代から、師に依存するカルト的な問題があり、蓮如上人は注意を払っていたのです。教えにかえていくことが大事なんです。

聖人は御同朋・御同行とこそかしずきておおせられけり。

(『御文』第一帖／『真宗聖典』760頁)

訳 親鸞聖人は、御同朋・御同行と、敬って呼んでおられました。

蓮如上人は、親鸞聖人が「御同朋・御同行」と言って同じ地平に立ち、人びとと出会っておられたことを語っています。ここに、師として人の上に立ち、誰々は私の弟子だといって私有化するの、浄土真宗のあり方ではないことが窺われます。

親鸞聖人が、御同朋・御同行と言って同じ所に立ってくださるのは、とても嬉しいです。親鸞聖人には「弟子一人ももたずそうろう」(『歎異抄』第六条／『真宗聖典』628頁)という言葉もあります。

教えを聞く場には人びとが集います。仏教ではそれを「僧伽」といい、同じ地平で教えを聞くことを大切にしました。その集まりのあり方が著しく歪み、絶対者や集団の支配の下に、追従・服従する姿になる時、カルト性の強い集団となるのでしょう。

浄土真宗の教えを聞いていても、自分自身が問題にならないとカルトの問題にもなりかねないですね。以前聞いた「教えが正しくても、聞く自分が正しいわけではない」という言葉が思い出されました。自分自身が問題となることが、聞法場に集う大切な意味なんではないでしょうか。

2 [秘事法門]

それ越前の国にひろまるところの秘事法門といえることは、さらに仏法にてはなし。

(『御文』第二帖／『真宗聖典』792頁)

訳 越前の国にひろまっている「秘事法門」といわれるものは、仏法ではありません。

蓮如上人の時代、真宗の教えを聞く人びとの中で、「秘事法門」と言われる特別な秘密の儀式で救われようとする問題がありました。蓮如上人は、それは仏法ではない、と厳しく指摘しておられます。

宗教の儀式はかたちを通して教えを聞くという点で、とても大切なものですが、秘密の儀式で救われるとなると、皆が救われる教えではなくなってしまいますね。

そうですね。秘密の儀式では、特別に選ばれた者の宗教になります。さらに仲間うちだけの秘密の技法であれば、神秘的な雰囲気をもたして宗教性を誇示することにもなり、従わない者には祟りがあると脅す力にもなってしまいます。

宗教によって解放されるはずが、逆に縛られることにもなりかねません。

誰もが救われる浄土真宗の教えを聞いているにもかかわらず、特別な者だけが救われると受けとめてしまう問題が教えられているのだと思います。蓮如上人の時代に限らず、現代に生きる私たちにもそのような問題があるのでしょうか。やはり、教えを聞き、確かめあうのが大切なのではないのでしょうか。

次回

次回(最終回)は、「宗教とは 信仰とは」をテーマに一案真氏(大谷大学学長)、四衛亮氏(青少年センター研究員)、平野喜之氏(金沢教区浄専寺住職)、木越渉宗務総長からの提言を掲載します。

※本ページの内容は、「カルト問題学習の手引き」(青少年センター発行)をもとに作成しております。

カルト問題に関する
各種リーフレットの
ダウンロードはこちらから



